ワンダフルメンバー
29
事業所紹介コーナー

No.23

株式会社 メタルテックス

本社・本社工場
〒525-0043　滋賀県草津市馬場町字岩川原 1200-30
馬場リンク工場
〒525-0043　滋賀県草津市馬場町字岩川原 1095-4
水口工場
〒528-0068　滋賀県甲賀市水口町ひのきが丘 5-2

URL　http://www.metaltex.co.jp/

metalTex Corporate profile

プロフィール

商　号	株式会社メタルテックス
設　立	1967年12月20日
代表者	代表取締役　倉長勇太郎
資本金	9,990万円
従業員数	255名
事業内容	●精密自動車鍛造品の機械加工 ●ATミッション部品のフローフォーミング成形及び機械加工 ●CVT部品の機械加工 ●建設機械足回りトラックリンクの加工及び組付け

ワールドクラスの品質に付加価値をプラスして・・・

当社は、1967年に㈱メタルアートの100%出資子会社として誕生しました。

設立当初は、建設機械用足回り品の製造を主な事業としていましたが、その後、時代の変化、お客様の要請に対応すべく、鍛造用金型の製作・自動車関連部品の精密機械加工等に進出し、業容を拡大、成長して参りました。

近年はメタルアートグループにおける「鍛造素材から機械加工までの一貫生産」での重要工程を担っており、常にお客様第一・品質第一を心がけ、精密機械加工を通じて、自動車産業・建設機械産業に大きく貢献しております。

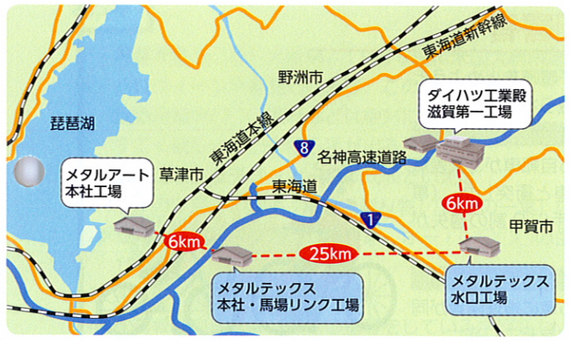
2007年12月に、設立40周年を迎え、更に世界に通用する品質・コスト競争力を確立する為に、TPM活動を軸とした改善活動に精力的に取り組んでおります。

2008年3月には、一層の業態の進化を図るため、滋賀県甲賀市にスモールカー用CVT（無段変速機）の主要構成部品を製造する専用工場を建設し、草津市の本社工場・馬場リンク工場をあわせて3ヶ所での操業となりました。

また、当社は近畿の水がめである琵琶湖を有する滋賀県に立地しており、この恵まれた自然環境を次世代に引き継ぐ責任を負っているものと考え、地域環境の保全にも力を注いでおります。

今後とも、役員、従業員一丸となり、お客様から一層の信頼を得られるよう努力してまいりますので、宜しくお願いいたします。

■本社工場外観



■水口工場外観

本社工場

ATミッションとマニュアルミッション鍛造品の機械加工を行っています。

当工場にて加工した部品は、明石機械工業殿・浅野歯車殿等で機械加工、組み付けを経て、トランスミッションとしてダイハツ工業殿のスモールカーに搭載されます。

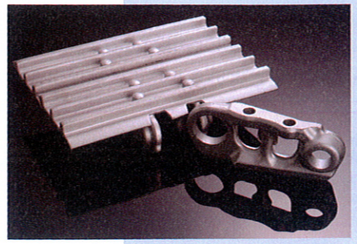
■本社工場生産品目

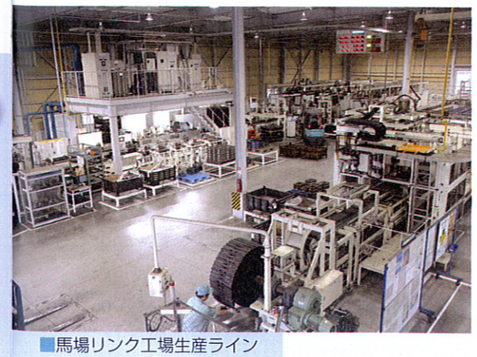
人財育成

当社は、「会社の大きな成長は、従業員一人ひとりの成長なしにはありえない」と考えています。ただ与えられた仕事をこなすだけの"人材"から会社になくてはならない財産となる"人財"へと成長させるべく、各種資格や技能検定の取得を推進しています。また、資格取得状況を一覧にして掲示することで従業員の資格取得への意欲を高めています。

馬場リンク工場

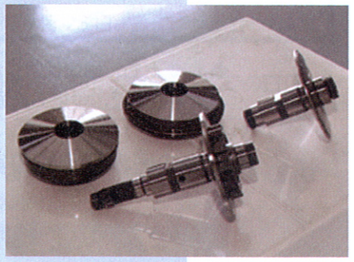
建設機械メーカーで主としてパワーショベルに搭載される建設機械足回り品（通称：キャタピラ）を製造しています。


■馬場リンク工場生産品目


■馬場リンク工場生産ライン

水口工場

ダイハツ工業殿向けCVT（無段変速機）用シーブ鍛造4部品を機械加工しています。当工場にて加工した製品は直接ダイハツ工業殿（滋賀工場）へ納入しています。


■水口工場生産品目

草津市の観光スポット、名物のご紹介

国指定史跡　草津宿本陣

東海道と中山道の合流点であり、多くの旅籠が軒を並べた草津宿。そのシンボルであり大名などが休泊したのが草津宿本陣。現存する最大級の本陣が平成の大修理を終え、当時の姿そのままに甦りました。多数の関札と浅野内匠頭や吉良上野介が名を連ねる大福帳などにふれれば、気分は江戸時代へとタイムスリップできそうです。

草津市立水生植物公園みずの森

三方を豊かな琵琶湖の自然に囲まれた心安らぐ植物園です。見どころは四季を彩る草花が美しい「丘の上の花園」や、水生植物と草花が織りなすハーモニーが幻想的な「花影の池」等。なかでもスイレンのコレクションは日本最多で、他では見られない水生植物が観察できます。7月下旬には、ハス祭りが行われます。

滋賀県立琵琶湖博物館

400万年におよぶ琵琶湖の歴史や湖と人との関わりを分かりやすく紹介する感動・体感型博物館。琵琶湖のおいたちを紹介するオープンジオラマコーナーや、かつて琵琶湖輸送の主役だった丸子船、昭和30年代の民家など知的好奇心をくすぐる出会いや発見がいっぱいです。日本最大級の淡水水族展示室では、ビワコオオナマズをはじめ、琵琶湖の生き物や世界の淡水魚が見られます。長さ10mのトンネル水槽をくぐればパノラマワイドに広がる湖中の様子に、水中散歩の気分が味わえます。五感を使って楽しく学べるディスカバリールームもあります。

博物館に隣接する「花蓮の群生地」
7月下旬～8月上旬がみごろ。

草津　名物「うばがもち」

「瀬田へ廻ろうか矢橋へ下ろか
此処が思案のうばがもち」

伝統の味と心を今に伝える近江名物「うばがもち」。羽二重餅（滋賀県環境こだわり米）をこしあんで包み、白餡と山芋の練り切りをのせた風雅で独特の姿です。

草津は東海道と中仙道の分岐点、交通の要所で旅人の格好の休み処だった。